

第4章 三角関数  
第1節 三角関数

1 角の拡張

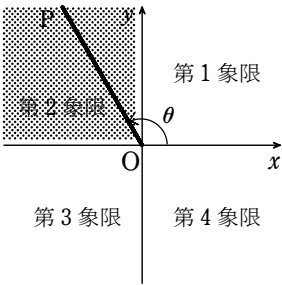
① 一般角

1 動径の表す角（度数法）

動径 OP と始線 OX のなす角の1つを  $\alpha$  とすると、動径 OP の表す角は  $\alpha + 360^\circ \times n$  ( $n$  は整数)

2 象限と一般角

点 O を原点とする座標平面上では、 $x$  軸の正の部分に始線 OX にとって、一般角  $\theta$  を考える。  
たとえば、 $\theta$  が右の図のようであるとき、 $\theta$  の動径は第2象限にあるという。なお、動径 OP が座標軸上にあるときは、どの象限にあるともいえない。



② 弧度法

1 1 ラジアン =  $\left(\frac{180}{\pi}\right)^\circ$ ,  $1^\circ = \frac{\pi}{180}$  ラジアン,  $\pi$  ラジアン =  $180^\circ$

注 弧度法では、単位のラジアンを省略するのがふつうである。

2 動径の表す角（弧度法）

動径 OP と始線 OX のなす角の1つを  $\alpha$  とすると、動径 OP の表す角は  $\alpha + 2n\pi$  ( $n$  は整数)

3 扇形の弧の長さや面積

半径  $r$ , 中心角  $\theta$  (ラジアン) の扇形の弧の長さ  $l$ , 面積  $S$  は

$l = r\theta, \quad S = \frac{1}{2}r^2\theta \text{ または } S = \frac{1}{2}lr$

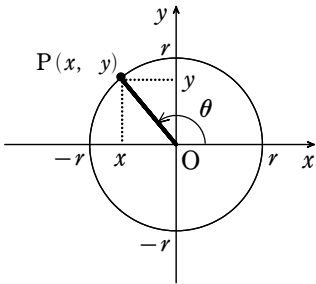
注 角の単位はラジアンを用いる。

2 三角関数

① 三角関数

一般角  $\theta$  の動径と、原点を中心とする半径  $r$  の円との交点を P( $x$ ,  $y$ ) とすると

$\sin \theta = \frac{y}{r}, \cos \theta = \frac{x}{r}, \tan \theta = \frac{y}{x}$



② 三角関数の値の範囲

$-1 \leq \sin \theta \leq 1, -1 \leq \cos \theta \leq 1,$   
 $\tan \theta$  の値の範囲は実数全体

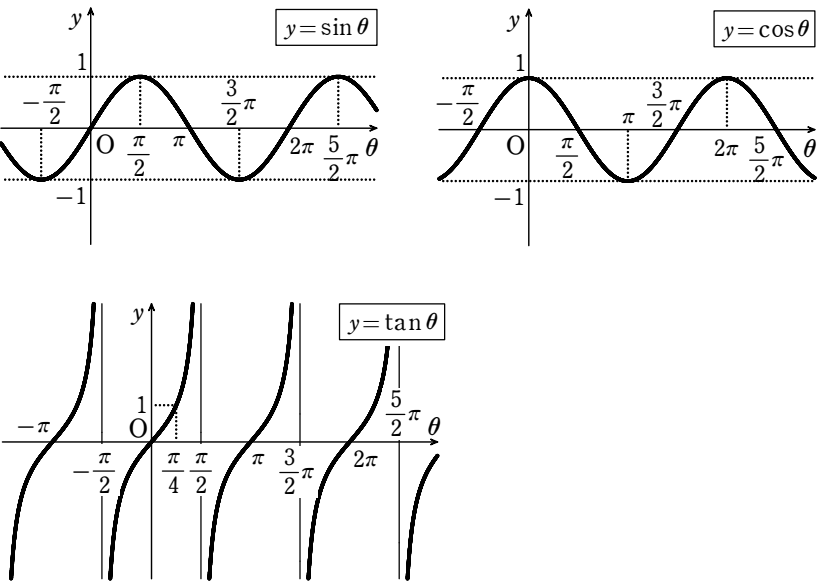
③ 三角関数の相互関係

1  $\tan \theta = \frac{\sin \theta}{\cos \theta}$       2  $\sin^2 \theta + \cos^2 \theta = 1$       3  $1 + \tan^2 \theta = \frac{1}{\cos^2 \theta}$

3 三角関数のグラフ

① 三角関数のグラフ

$y = \sin \theta$     周期は  $2\pi$ , 原点に関して対称  
 $y = \cos \theta$     周期は  $2\pi$ ,  $y$  軸に関して対称  
 $y = \tan \theta$     周期は  $\pi$ , 原点に関して対称



② いろいろな三角関数のグラフ

$y = \sin(\theta - \alpha)$      $y = \sin \theta$  のグラフを、 $\theta$  軸方向に  $\alpha$  だけ平行移動したもの。  
 $k$  を正の定数とすると

$y = k \sin \theta$      $y = \sin \theta$  のグラフを、 $\theta$  軸をもとにして  $y$  軸方向へ  $k$  倍したもの。

$y = \sin k\theta$      $y = \sin \theta$  のグラフを、 $y$  軸をもとにして  $\theta$  軸方向へ  $\frac{1}{k}$  倍したもの。

$y = \sin k\theta, y = \cos k\theta$  の周期は  $\frac{2\pi}{k}$ ,  $y = \tan k\theta$  の周期は  $\frac{\pi}{k}$

4 三角関数の性質

① 三角関数で成り立つ等式

1  $n$  を整数とすると

$\sin(\theta + 2n\pi) = \sin \theta, \cos(\theta + 2n\pi) = \cos \theta, \tan(\theta + n\pi) = \tan \theta$

2  $\sin(-\theta) = -\sin \theta, \cos(-\theta) = \cos \theta, \tan(-\theta) = -\tan \theta$

参考 グラフの対称性 一般に、関数  $y = f(x)$  について

[1] 常に  $f(-x) = -f(x)$  である  $\iff$  グラフは原点に関して対称

[2] 常に  $f(-x) = f(x)$  である  $\iff$  グラフは  $y$  軸に関して対称

3  $\sin(\theta + \pi) = -\sin \theta, \cos(\theta + \pi) = -\cos \theta, \tan(\theta + \pi) = \tan \theta$

4  $\sin\left(\theta + \frac{\pi}{2}\right) = \cos \theta, \cos\left(\theta + \frac{\pi}{2}\right) = -\sin \theta, \tan\left(\theta + \frac{\pi}{2}\right) = -\frac{1}{\tan \theta}$

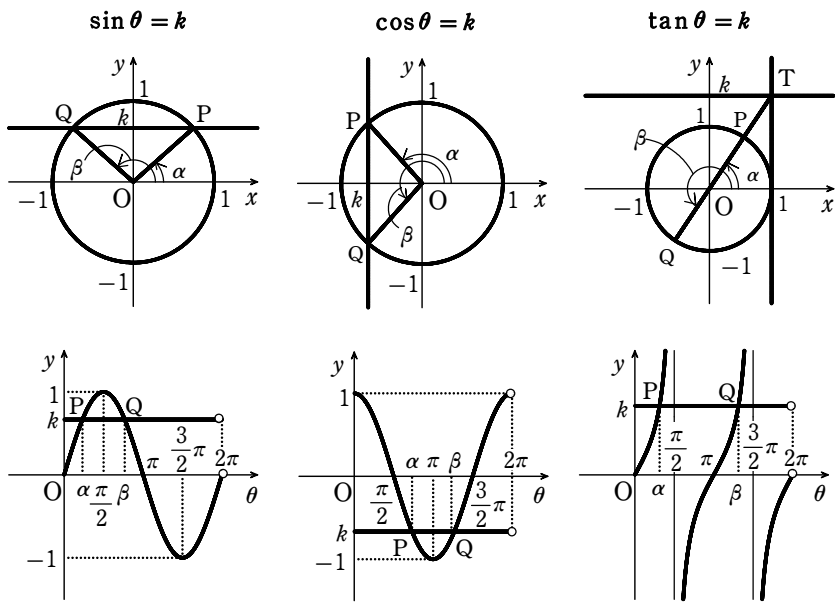
5  $\sin(\pi - \theta) = \sin \theta, \cos(\pi - \theta) = -\cos \theta, \tan(\pi - \theta) = -\tan \theta$

6  $\sin\left(\frac{\pi}{2} - \theta\right) = \cos \theta, \cos\left(\frac{\pi}{2} - \theta\right) = \sin \theta, \tan\left(\frac{\pi}{2} - \theta\right) = \frac{1}{\tan \theta}$

5 三角関数の応用

① 三角関数を含む方程式、不等式

三角関数を含む方程式、不等式は、単位円やグラフを利用して解く。



② 三角関数を含む関数の最大値、最小値

- 1 三角関数を  $t$  でおき換え、 $t$  の関数とみて、最大値、最小値を求める。
- 2  $\sin \theta = t, \cos \theta = t$  などとおき換えたときは、 $\theta$  の範囲に注意して、 $t$  のとりうる値の範囲を考える。

第2節 加法定理

6 三角関数の加法定理

① 正弦, 余弦の加法定理

- 1  $\sin(\alpha+\beta)=\sin\alpha\cos\beta+\cos\alpha\sin\beta$
- 2  $\sin(\alpha-\beta)=\sin\alpha\cos\beta-\cos\alpha\sin\beta$
- 3  $\cos(\alpha+\beta)=\cos\alpha\cos\beta-\sin\alpha\sin\beta$
- 4  $\cos(\alpha-\beta)=\cos\alpha\cos\beta+\sin\alpha\sin\beta$

② 正接の加法定理

- 5  $\tan(\alpha+\beta)=\frac{\tan\alpha+\tan\beta}{1-\tan\alpha\tan\beta}$
- 6  $\tan(\alpha-\beta)=\frac{\tan\alpha-\tan\beta}{1+\tan\alpha\tan\beta}$

③ 2直線のなす角

直線  $y=mx$  と  $x$  軸の正の向きとのなす角を  $\theta$  とすると  $\tan\theta=m$

【参考】 一般に, 交わる2直線  $y=m_1x+n_1$ ,  $y=m_2x+n_2$  が垂直でないとき, そのなす鋭角を  $\theta$  とすると  $\tan\theta=\left|\frac{m_1-m_2}{1+m_1m_2}\right|$

④ 点の回転 研究

点  $P(a, b)$  を, 原点  $O$  を中心として  $\theta$  だけ回転した位置にある点  $Q(x, y)$  について,  $OP=r$ , 動径  $OP$  と  $x$  軸の正の向きとのなす角を  $\alpha$  とすると

$$x=r\cos(\alpha+\theta)=r\cos\alpha\cos\theta-r\sin\alpha\sin\theta=a\cos\theta-b\sin\theta$$

$$y=r\sin(\alpha+\theta)=r\sin\alpha\cos\theta+r\cos\alpha\sin\theta=b\cos\theta+a\sin\theta$$

7 加法定理の応用

① 2倍角の公式

- 1  $\sin 2\alpha=2\sin\alpha\cos\alpha$
- 2  $\cos 2\alpha=\cos^2\alpha-\sin^2\alpha=1-2\sin^2\alpha=2\cos^2\alpha-1$
- 3  $\tan 2\alpha=\frac{2\tan\alpha}{1-\tan^2\alpha}$

【参考】 3倍角の公式

- 1  $\sin 3\alpha=3\sin\alpha-4\sin^3\alpha$
- 2  $\cos 3\alpha=-3\cos\alpha+4\cos^3\alpha$

② 半角の公式

- 1  $\sin^2\frac{\alpha}{2}=\frac{1-\cos\alpha}{2}$
- 2  $\cos^2\frac{\alpha}{2}=\frac{1+\cos\alpha}{2}$
- 3  $\tan^2\frac{\alpha}{2}=\frac{1-\cos\alpha}{1+\cos\alpha}$

③ 三角関数の合成

$$a\sin\theta+b\cos\theta=\sqrt{a^2+b^2}\sin(\theta+\alpha)$$

$$\text{ただし } \cos\alpha=\frac{a}{\sqrt{a^2+b^2}}, \sin\alpha=\frac{b}{\sqrt{a^2+b^2}}$$

【発展】 和と積の公式

(積  $\rightarrow$  和)

- 1  $\sin\alpha\cos\beta=\frac{1}{2}\{\sin(\alpha+\beta)+\sin(\alpha-\beta)\}$
- 2  $\cos\alpha\sin\beta=\frac{1}{2}\{\sin(\alpha+\beta)-\sin(\alpha-\beta)\}$
- 3  $\cos\alpha\cos\beta=\frac{1}{2}\{\cos(\alpha+\beta)+\cos(\alpha-\beta)\}$
- 4  $\sin\alpha\sin\beta=-\frac{1}{2}\{\cos(\alpha+\beta)-\cos(\alpha-\beta)\}$

(和  $\rightarrow$  積)

- 5  $\sin A+\sin B=2\sin\frac{A+B}{2}\cos\frac{A-B}{2}$
- 6  $\sin A-\sin B=2\cos\frac{A+B}{2}\sin\frac{A-B}{2}$
- 7  $\cos A+\cos B=2\cos\frac{A+B}{2}\cos\frac{A-B}{2}$
- 8  $\cos A-\cos B=-2\sin\frac{A+B}{2}\sin\frac{A-B}{2}$